

日本語・中国語・韓国語・英語の一語文に関して

一川端康成『伊豆の踊子』の原文と翻訳文を検討材料として一

穆 欣

1. はじめに

日本語においては、「あっ！」や「危ない！」などのような一語文が実生活ではよく用いられており、とりわけ会話などの話し言葉として多用されている。中国語・韓国語においても、「啊！」「아！」（あっ！）や「危険！」「위험해！」（危ない！）のような一語文が存在し、また英語においても「Run！」（走れ！／逃げろ！）のような一語文がある。

2. 先行研究

一語文に関して、山田（1936）は「一語にて一の文となる」と定義している。

小池（2000）は一語文を真性一語文（「エッ？」のような感動詞による一語文）と擬似一語文（ほかの品詞や接頭辞、省略、一辞による一語文）に分けており、擬似一語文を以下のように分類し、それぞれの例文を挙げている。（下線：筆者）

- ① 名詞一語文：「雨!」「犬?」「月曜日……」
- ② 動詞一語文：「読メバ?」（「読めばどうなの？」の意）
- ③ 形容詞・形容動詞一語文：「暑イ。」（「私は暑いと感じる。」の意）「好きだ。」
- ④ 副詞一語文：「牛乳飲ム?」「チョット（ダケ）。」（程度副詞。少量の意）
「牛乳飲ム?」「チョット。」（呼応副詞。「牛乳は苦手ですとちょっと飲みません。」）
- ⑤ 連体詞一語文：「コノオ!（馬鹿野郎!）」
- ⑥ 接続詞一語文：「コノ程度ノ雨ナラ決行デショウカ。」「シカシ……」
- ⑦ 一辞文：「ソコノ道路工事ニハ、ホントニ困ルネ。」「デショウ。客ガ来ナインデス。」
- ⑧ 助詞一辞文：「私バカリ、用事ヲ言イ付ケル。」「バカリ?」
- ⑨ 接頭辞・接尾辞一辞文：「鈴木君ガ会長役ヲ買ッテ出タソウダ。」「ラシイ!」

以上の分類と例文から見て、小池（2000）は省略と談話という二つの要素を意識しながら、一語文を検討している。

②の「読めば？」は、文脈によって「（この本が）読みたければ、読めば？」（勧め／許可）という

ような意の場合もある。⑨の「らしい」は、「鈴木君らしい行動だ」という意である。

また、「雨！」などの名詞一語文について、小池（2000）は『『好きなのはなに？』『嫌いなのはなに？』『何が問題なの？』『梅雨に降るものはなに？』などの答えになり得る』と指摘している。実際に名詞一語文は必ずしも応答文に限らず出現する場合もある。例えば、ずっと勉強している人が、雨が突然降ってきたのに気付いて、「雨！」と言ったりする。独り言のような名詞一語文の場合は文脈に依存せず、むしろ感動詞による真性一語文のような機能を果たしていると言える。文自体の構造から言うと、三上（1970）は『『あつ雨が降ってきた。』を端折ると、『あつ雨だ。』となって“ガ”が消える』と述べている。さらに、「あつ雨だ」という文における「あつ」と助動詞「だ」を省略して「雨」になると考えられるため、省略による擬似一語文とも言える。

「暑い」などの形容詞一語文も、例えば、運動してから、思わず「暑い！」と言ったりする。この場合にも必ずしも文脈が必要ではないだろう。また、主題・主格も省かれて、感動詞に近い使い方であり、真性一語文の性格を持つと考えられる。しかし、生理的反射音に近い感動詞「エッ」などの真性一語文は、主題・主格などを補うことができないのに対して、「(今日は) 暑い」の場合の「暑い」などの擬似一語文は、「今日は」という主題を補うことができる。

佐藤（2009）は、文学作品を検討材料として、談話における一語的な名詞文、とくに主題・主格と関連づけて、一語的な名詞文の意味や機能などを考察しているが、主題・主格などの省略による動詞・形容詞・副詞などの一語文に関しては検討を加えていない。

中国語における一語文¹に関して、郭（1959）は、以下の十種類を挙げている（日本語訳は筆者）。

① 物事の属性を感嘆するもの。

例：一个多伟大的人物！（一人のとても偉大な人物！→何と偉大な人物だろう！）

② 物事の出現を表すもの。例：血！（血だ！）

③ 物語の時間や場所を説明するもの。例：夜里（夜中）

④（人に対する）呼称。例：老秦（秦さん）

⑤ 相槌・応答表現。例：是！（はい！）（好极了！那我不必说别的了）什么？

（（よかった！じゃ言うまでもないよ）何？）

⑥ 感動詞。例：哈！（は！）

⑦ 待遇表現。例：多谢，多谢（どうもありがとう）

⑧ 名詞の命令表現。例：票！（（車掌がチケットを見せてもらう時に）チケット！）

⑨ 叱る表現。例：混蛋！（馬鹿野郎！）

⑩ オノマトペ。例：砰砰！（パンパン）

¹ 一語文は中国語では、「独詞句」と言う。郭（1959）の原文でも「独詞句」という用語を使用している。

また、中国語における「句」は日本語の「文」を指す。つまり、日本語においては、語、句、文という用語を使用するのにに対して、中国語においては、詞、詞組、句という用語を使用する。本稿では、誤解を避けるために、中国語における「独詞句」という用語を使用する代わりに、「一語文」を使用する。

郭（1959）の分類について、日本語と対照して見ると、いくつかの問題点がある。例えば、分類①の日本語訳から見れば、明らかに一語文ではない。中心語と修飾語で「一个多伟大的人物！」を解釈しているが、「中心語（人物）＋修飾語（一个多伟大的）」という表現を一語として扱うことが、中国語の解釈では成り立つかもしれないが、日本語の分析としては、妥当であるとは言えない。

また、郭（1959）の挙げた分類⑦「多谢，多谢」（どうもありがとう）と分類⑩「砰砰」（ピストルの発砲音のパンパン）のように、語の反復（くり返し）現象がしばしば見られる。意味としては「多谢」だけでも「どうもありがとう」という意を表せるが、感謝の意を強調するために語を繰り返して用いる場合が多い。ピストルの発砲音のような「砰砰」（パンパン）も、「砰」の反復であるが、伝わる感覚には異なるニュアンスが含まれるためだと考えられる。意味的に「多谢多谢」や「砰砰」はすでに一塊として理解され、中国語では一語文として認められる。

しかし、日本語においても「もしもし」のような呼びかけ表現がある。「もしもし」という表現は、全体が感動詞として使用されるため、一語文として見なされ、仮定文に用いる副詞「もし」とは区別される。

乳幼児初期に、「マンマ」や「字」などのような一語文も出現する。村井（1986）は、言語発達の観点から『マンマ』、『字』いずれも『マンマが欲しい』、『字を書いてほしい』といった文と同一の意味内容を表しうる」と指摘している。このような表現は、郭（1959）の分類⑧名詞の命令表現に当てはまるのではないかと考えられる。

一語文を判断する際に、語そのものが持つ意味と文としての文法的機能を考慮せねばならない。仁田（2012）は、「語が、ある一定の語彙的意味を表すという、語彙的な側面を有しているとともに、ある一定の文法的な意味や機能（群）を担うという、文法的な側面を有している、ということの意味している」と指摘している。

なお、小池（2000）は品詞に基づいて分類したが、郭（1959）は一語文の性格、使用場面に基づいて分類した。郭（1959）の分類⑩オノマトペについては、小池（2000）は言及していないが、品詞的には副詞一語文に入ると考えられる。逆に、郭（1959）の分類では、品詞的には名詞に偏り、形容詞、接続詞などの例が欠けている。

3. 研究の目的

本稿は省略の観点から、三上（1970）の述べている主題・主格に関する内容を含めて、小池（2000）の「擬似一語文」を考察の対象とする。とりわけ談話において、どのような部分がいかに省略されて一語文になるのかを検討する。また、日本語の原文と中国語訳・韓国語訳・英語訳を対照しながら、日本語における一語文は、どのように中国語・韓国語・英語に翻訳されているか、訳文は一語文となっているか否かも検討する。これによって、四つの言語における一語文に関する異同を明らかにしたい。

4. 研究方法

本稿では、日本語の一語文を川端康成の『伊豆の踊子』の中から抜粋する。抜粋された文に関して、日本語の原文と中国語・韓国語・英語の翻訳文を対照しながら分析を進める。

日本語の『伊豆の踊子』は新潮文庫版を用いた。中国語訳は上海訳文出版社より出版された侍桁（ジコウ）の『雪国』中の「伊豆的歌女」を用い、韓国語訳は문예출판사（文藝出版社）より出版された장경룡の『설국(雪國)』中の「이즈의 무희」（伊豆の踊子）を用い、英語訳は J・マーティン・ホルマン（J. Martin Holman）の『*The Dancing Girl of Izu and Other Stories*』中の「The Dancing Girl of Izu」を用いた。

抜粋された日本語の一語文は、基本的に小池（2000）の分類に従い、品詞によって名詞一語文、動詞一語文、形容詞一語文、副詞一語文に分ける。本稿では、小池の分類中の①～④を検討対象とする。

日本語と韓国語においては、自立語と付属語という概念がある。本章では、「自立語＋付属語」による文を一語文として扱う。

英語においては、内容語（content word）と機能語（function word）という概念がある。一般的に、名詞・形容詞・副詞・疑問詞・否定形は内容語、助動詞・前置詞・接続詞・（定）冠詞・代名詞は機能語とされている²。内容語は一語で独立し意味を持つ語であるため、本稿では、「機能語＋内容語」による文を一語文として扱う。

また、仁田（2012）の指摘しているように、本稿では取り上げた例の中に、統語論から見ると、一語とは言えないが、意味から見ると、すでに一塊になっており、分離できない状態になっている（「かもしれない」のような日本語の連語が該当する）場合がある。意味上一塊になっている例を、本稿では一語文として認める立場に立つ。

5. 分析

① 名詞一語文

(1) ア まもなく栄吉が私の宿へ来た。

「皆は?」

(1) イ 没多久，荣吉到我的旅馆来了。

“她们呢?”

(1) ウ 조금 후에 에이키치가 내 숙소로 찾아왔다.

“딴 사람들은?”

² <http://pronuncian.com/Lessons/Default.aspx?Lesson=58> を参照

(1) エ Before long Eikichi came to my room.

"Where is everyone?" I asked.

(1) アの日本語の原文は、主題のみで疑問の名詞一語文になる例である。つまり、主題をまず提起し、主題の後の内容はすべて「主題について言えば」であり、とりわけ談話レベルであれば、のちの内容「どこですか？」を言わなくても相手が分かるため、述部が省かれた場合である。

(1) イの中国語訳「她们呢？」（彼女たちは？）は日本語と同じように、名詞一語文である。

(1) ウの韓国語訳「딴 사람들은？」[²tan sa:ramduulun?]（ほかの人たちは？）は、「딴」[²tan]（ほかの）という冠形詞（日本語の連体詞に相当するもの）を用いて訳している。「딴」[²tan] は付属語であるため、結果は日本語と同じように、名詞一語文と認められる。

日本語・中国語・韓国語は主題に関して質問する場合、主題のみで一語文になり得るのに対して、(1) エの英語訳はwhereを用いて訳さなければならない。たとえ「everyone?」というように直訳しても、日本語のような意味を含ませることができないし、聞き手にも理解できないだろう。このことから、(1) のような主題による名詞一語文は、日本語・中国語・韓国語の特徴だと言える。また、英語訳の最後には I asked という表現がある。これは一連の会話の流れにおいて、発話者を明確にさせるために補ったと考えられる。

(2) ア 一時間ほどすると四人いっしょに帰って来た。

「これだけ一。」と、踊子は握りこぶしからおふくろの掌へ五十銭銀貨をざらざら落とした。

(2) イ 过了一小时的工夫，四个人一同回来。

“就是这么点……” 歌女从拳头里向妈妈的手掌上倒出了五角零碎的银币。

(2) ウ 한 시간쯤 지나자 네명이 똑같이 돌아왔다.

“이것뿐이에요” 하고 무희는 주먹 속에서 어머니의 손바닥에 50전짜리 은화를 거칠게 떨어뜨렸다.

(2) エ About an hour later all four returned.

"This is all we got." The dancing girl dropped some fifty-sen coins from her fist into the older woman's palm.

(2) アの日本語は、「儲け（実入り）はこれだけ一（です）」の「儲け（実入り）」という主題を省いて、自立語「これ」と付属語「だけ」が結合した一語文である。意味上「これだけ一」は一塊になっている。

(2) イの中国語訳は、主題・主格が訳されていないが、故ら(2004)によると「是」を動詞として、「就」(ほんの)を副詞として扱っており、「这么点」(これだけ)が目的語になる。そのため、厳密に言うと中国語訳は述語と目的語を備えており、一語文とは言えない。

(2) ウの韓国語訳は、文末に終結語尾(日本語の助動詞に相当するもの)「다」[ta](だ)の丁寧表現「이에요」[iejo](です)がついている一語文である。

(2) エの英語訳は、代名詞 This を主語として補っており、述語 is と補語 all we got を備えているため、一語文ではない。

(3) ア「学生さんがたくさん泳ぎに来るね。」踊子が連れの女に言った。

「夏でしょう。」と、私がふり向くと、踊子はどぎまぎして、

「冬でも……。」と、小声で答えたように思われた。

「冬でも？」踊子はやはり連れの女を見て笑った。

(3) イ“有许多学生到我们那儿来游泳，”歌女向结伴的女人说。

“是在夏天吧，”我说着转过身来。歌女慌了神，象是在小声回答：

“冬天也……”

“冬天？”歌女还是看着结伴的女人笑。

(3) ウ“학생들이 수영하러 많이 오더군요.” 하고 무희가 일행인 여자에게 말했다.

“여름이겠지요?” 하고 내가 돌아다보니까 무희는 당황하여,

“겨울에도……” 하고 나직한 목소리로 대답한 것 같았다.

“겨울에도?” 무희는 역시 일행인 여자를 보고 웃었다.

(3) エ "A lot of students come to the island to swim, don't they?" the dancing girl said to the girl with her.

I turned back toward them. "In the summer, right?"

The dancing girl was flustered. "In the winter, too," I thought I heard her answer softly.

"In the winter, too?" I asked.

(3) アの日本語の第二文「夏でしょう」は談話としてみると、主題「学生さんがたくさん泳ぎに来るのは」を省いた文だと考えられる。第三文と第四文の「冬でも」は、主題「学生さんは」と述部「泳ぎに来る」を省いた名詞一語文である。第三文は言い止し文であり、第四文は疑問文である。「夏でしょう」と「冬でも」は、自立語「夏」「冬」に付属語「でしょう」「でも」が後接した一語文だと考えられる。

(3) イの中国語訳の第二文「是在夏天吧」は、主題・主語が省かれているが、文自体が動詞「是」、前置詞「在」(に)、「夏天」(夏)と推量を表す間投詞「吧」(でしょう)による文であり、一語文とは言えない。第三文の「冬天也」(冬でも)は、「冬天」(冬)に「也」(も)が後接した一語文であり、日本語と同様に主題・主格と述語が省かれている。第四文は「也」(も)が省かれており、「冬天」だけを残した一語文である。

(3) ウの韓国語訳の第二文は、日本語と同じように「여름이다」[jɔrumida] (夏だ)の推量表現「여름이겠죠」[jɔrumigetjo] (夏でしょう)による一語文である。第三文と第四文は、自立語「겨울」[kjɔul] (冬)と付属語「에」[e] (に)「도」[to] (も)による一語文である。

(3) エの英語訳 in the summer と in the winter の部分は、「in」「the」という二つの機能語と「summer」「winter」という内容語によるため、in the summer と in the winter は本稿で一語文として扱うが、in the summer, right?の場合は、文末に付加疑問文 (tag question) の性格を有するrightを補っているため、一語文とは言えない。第三文と第四文は in the winter に副詞の too が後接し、副詞を内容語とした場合、一語文とは言えない。

② 動詞一語文

(4) ア 五六人の鉱夫が婆さんをいたわっていた。私は婆さんの世話を快く引き受けた。

「頼みましたぞ。」

(4) イ 五六个矿工在安慰着老婆婆。我爽快地答应照料她。“拜托你啦。”

(4) ウ 대여섯 명의 관부가 할머니를 친절히 돌보고 있었다. 나는 할머니를 보살피주는 일을 선뜻 떠맡았다.“잘 부탁하네.”

(4) エ Five or six miners were looking after the old woman. I was pleased to accept the task.
"Thank you. We're counting on you."

(4) アの日本語の動詞一語文は、主題、与格、対格を省いた文であり、それを補うと、「わたしたちは、あなたにこの婆さんを頼みましたぞ」になるが、五六人の鉱夫、婆さんと「私」はその場におり、つまり対面しながらの会話文であるため、日本語の場合、動詞の一語文を用いて表現しても理解には支障がない。

(4) イの中国語訳は、主題・主格が訳されていないが、「拜托」(頼みました)の目的語「你」(あなたに)を補っているため、一語文ではない。

(4) ウの韓国語訳は、動詞「부탁하네」[put^hak^hane] (頼みますよ)と副詞「잘」[tjal] (よく)による文であるため、一語文ではない。「잘」[tjal]を用いたのは原文の副助詞「ぞ」による強意を訳すためだと考えられる。

- (4) エの英語訳は、主語 we や目的語 you などが補われているため一語文ではない。
- (5) ア 踊子は衣裳をつけて私に言った。「すぐもどって来ますから、待っていて続きを読んで下さいね。」それから廊下に出て手をついた。「行って参ります。」
- (5) イ 她换了衣裳，对我说：“我马上就回来，等我一下，还请接着读下去。”她到外面走廊里，垂下双手行着礼说：“我去啦。”
- (5) ウ 무회는 의상을 갖추어 입고 나더니 나에게 말했다.
“바로 돌아올 테니까, 기다렸다가 그 다음을 읽어 주세요,네?” 그러고는 복도에 나가 손을 짚고 절을 했다. “다녀오겠어요.”
- (5) エ She put on her costume.
"I'll be back soon, so please wait. And read the rest to me."
Out in the hallway she bowed low.
"I'll return soon."
- (5) アの日本語は複合動詞による動詞一語文である。主題「わたしは」が省かれている。実際に、「行って参ります」のような表現は、すでに挨拶表現として一語化し、話し言葉として定着している。
- (5) イの中国語訳は、文頭に「我」（わたしは/わたしが）を補っているため、一語文ではない。
- (5) ウの韓国語訳は、日本語と同じように、動詞「다니다」[tanida]（行く）と動詞「오다」[oda]（来る）による複合動詞の一語文である。
- (5) エの英語訳は、文頭に主語 I を補って訳しているため、一語文ではない。
- (6) ア 「昨夜はだいぶ遅くまでにぎやかでしたね。」
「なあに。—聞こえましたか。」
「聞こえましたとも。」
- (6) イ “昨天夜里你们欢腾得好晚啊。”
“怎么，你听见啦？”
“当然听见了。”
- (6) ウ “어젯밤은 꽤 늦게까지 흥청거린 모양이죠?”
“아아뇨. 소리가 드리던가요?”
“들리고말고요.”

- (6) エ "You were having quite a time last night. The drum was going until late."
 "What? You could hear it?"
 "Yes, I could."

(6) アの日本語の第二文と第三文は、「聞こえましたか」という質問文と「聞こえましたとも」という応答であり、いずれも動詞による一語文である。話し手と聞き手が対面して会話をしているので、主題へと対象を表すガが省かれている。それを補うと、質問文は「あなたは声や太鼓の音が聞こえましたか」になり、応答文は「わたしは(その)声や太鼓の音が聞こえましたとも」になる。疑問文中の「なあに」は感動詞による真性一語文であるので、本稿では検討しない。

(6) イの中国語訳に関して、質問文に目的語を省いているが、文頭に「你」(あなたは/あなたが)を補っているため、その結果、一語文ではない。応答文には、主格と目的語が省かれているが、日本語の「とも」を訳すために副詞「当然」(もちろん)を補っており、動詞「听见」(聞こえる)を入れると、二語になるので、一語文ではない。

(6) ウの韓国語訳は、質問文に主格「소리가」[soriga] (声が)を補って訳しており、一語文ではない。応答文は動詞「들리다」[tulrida] (聞こえる)に慣用形「고맙고요」[ko malgojo] (とも)が後接した一語文である。

(6) エの英語訳は、質問文に主語、述語、目的語を補って訳しているため、一語文ではない。応答文にも主語を補っているため、一語文ではない。英語訳には「にぎやか」の音源をdrum (太鼓)と特定して訳出しているため、何が「聞こえました」かを明示していることとなる。

③ 形容詞・形容動詞一語文

- (7) ア 「歯が折れるじゃないか。」とおふくろがたしなめた。
 「いいの。下田で新しいのをかうもの。」

- (7) イ “这样不是把梳子的齿弄断了吗？”妈妈责备她说。
 “没关系，在下田要买把新的。”

- (7) ウ “살이 부러지잖아” 하고 어머니가 탕리렀다.
 “괜찮아요. 시모타에서 새 빗을 살 거예요.”

- (7) エ "The teeth will break," the woman warned her.
 "It's okay. I'll get a new one in Shimoda."

(7) アの日本語は、自立語「いい」と付属語「の」が結合した形容詞一語文である。談話によると、「櫛の歯が折れる」コトの部分が省かれている。この部分を主題として補ってみると、「櫛の歯が折れることはいいの」になる。

(7) イの中国語訳「没关系」(大丈夫です/いいです/構わないですなどに相当する)のもともとの形は、「没有关系」であるが、やがて動詞「有」が省かれ、副詞「没」と目的語「关系」だけが残っている。また、意味的にもすでに一塊になっており、とりわけ口語的応答表現として多用されており、一語文として認める。(7) イは、郭(1959)の⑤の応答表現としての一語文に相当する。

(7) ウの韓国語訳「괜찮아요」[kwentʃʰanajo] (大丈夫です) も一語文である。

(7) エの英語訳は、形式主語、be動詞、補語を補っているため、一語文ではない。

(8) ア「どうしよう。今夜はもうよしにして遊ばせていただくか。」

「うれしいね。 うれしいね。」

(8) イ “怎么样，今天晚上就到此为止，让大家玩玩吧。”

“那可开心， 那可开心。”

(8) ウ “어떻게 할까? 오늘밤은 이젠 그만하고 놀아줄까?”

“아이 좋아， 감사합니다。”

(8) エ "What do you think? Shall we just forget about it and have a good time instead?"

"That would be wonderful."

(8) アの日本語は同じ形容詞一語文が二度出現している。談話によると、「それは」という主題が省かれていることが考えられる。

(8) イの中国語訳も、「那可开心」(それはとてもうれしい)という表現を繰り返して訳している。形容詞「开心」(うれしい)と副詞「可」(とても)以外に、文頭に「那」(それは)を補っているため、一語文ではない。

(8) ウの韓国語訳は「うれしい」を直訳するかわりに、感動詞的な表現を用いて訳している。「아이 좋아」[aitʃoa] (あら、いいね)の部分は、二つの感動詞「아이」[ai] (まあ/あら)と「좋아」[tʃoa] (いい)による表現である。「감사합니다」[kamsahamnida] (感謝します)は動詞による表現であり、全体的に言うとも一語文ではない。

(8) エの英語訳は、文頭に主語 **That** を補って訳しているため、一語文ではない。また、「うれしい」を直訳するのではなく、形容詞の **wonderful** (すばらしい)を用いて訳している。

(9) ア「杖にあげます。一番太いのを抜いて来た。」

「だめだよ。太いのは盗んだとすぐわかって、見られると悪いじゃないか……」

(9) イ “你做手杖。我挑了一根挺粗的。”

“不行啊！拿了粗的，人家立刻会看出是偷的，被人看见不糟糕吗？送回去吧。”

(9) ウ “지팡이로 드리겠어요. 제일 굵은 걸 뽑아 가지고 왔어요.”

“안돼. 굵은 건 훔친 줄 금방알게 돼. 들키면 곤란하잖아……”

(9) エ "Here. It's a walking stick. I pulled out the thickest one. "

"You can't do that. If someone sees him with the thickest one, they'll know we stole it..."

Eikichi said.

(9) アの日本語は、自立語としての形容動詞「だめだ」と付属語としての終助詞「よ」が結合した一語文であり、主題・主格も省かれている。主題を補うと、「一番太いのを抜いて来たのはだめだよ」になる。

(9) イの中国語訳は、動詞「不行啊」（だめだ）のように訳している。「不行」は、もともとの形として副詞の「不」と動詞「行」によるものであるが、意味的には、すでに一塊になっており、郭(1959)も「不行啊」を種類⑤の相槌・応答表現に入れている。本稿も一語文として認める。

(9) ウの韓国語訳は、動詞「안되다」[andweda]（だめだ）による一語文である。

(9) エの英語訳は、主語 you と目的語 that を補って訳しているため、一語文ではない。

④ 副詞一語文

(10) ア 「高等学校の学生さんよ。」と、上の娘が踊子にささやいた。私が振り返ると笑いながら言った。

「そうですね。それくらいのことは知っています。島へ学生さんが来ますもの。」

(10) イ “是位高等学校的的学生呢，”年长的姑娘对歌女悄悄说。我回过头来，听见歌女笑着说：“是呀。这点事，我也懂得的。岛上常有学生来。”

(10) ウ “이봐요, 고등학생” 하고 언니 되는 아가씨가 무희에게 속삭였다. 내가 돌아다보자 웃으면서 말했다.

“그거 보라구. 그 정도는 알고 있어요. 학생이 섬에 왔군요.”

(10) エ "He's an upper-school student," the oldest girl whispered to the dancing girl. When I looked around she smiled.

"That's right, isn't it? I know that much. Students are always coming down to the island."

(10) アの日本語は、副詞「そう」に助動詞「だ」の推量表現「でしょう」が後接した一語文である。「そう」は、前文の「高等学校の学生さん」全体を受けている。

(10) イの中国語訳の第二文は、第一文を承けるため、目的語が省かれており、動詞「是」に間投詞「呀」（でしょう）が後接した一語文である。(10) イは、郭(1959)の分類⑤に当てはまる。

(10) ウの韓国語では、もともと形は「그것을 보라구」[kugəsulporagu] (名詞「 그것」 [kugət] (それ)、格助詞를[ruul] (を)、動詞「보다」 [poda] (見る)、終結語尾(日本語の終助詞に相当するもの)「라고 (라구)」[rago/ragu]である。日本語の「そうでしょう」のような意味を表すとき、「그거 보라구」[kugəporagu]の形式を使用する。「그거 보라구」[kugəporagu]は、名詞と動詞の間に格助詞が省かれ、意味的にはすでに一塊になっており、慣用形として定着しつつある。そのため、本稿では一語文と見なす。

(10) エの英語訳は、「でしょう」を訳すために、文末に付加疑問文isn't itを使っており、一語文ではない。

(11) ア「書生さんの紺飛白はほんとにいいねえ。」と言って、しげしげ私を眺めた。

「この方の飛白は民次と同じ柄だね。そうだね。同じ柄じゃないかね。」

(11) イ 这当儿，四十岁的女人频频地注视着我，突然说：“这位书生穿的藏青碎白花纹上衣真不错呀。”

于是她再三钉着问身旁的女人：“这位的花纹布和民次穿的花纹是一样的，你说是吧？不是一样的花纹吗？”

(11) ウ “학생의 곤가스리는 정말 좋군요” 하고 말하고는 찬찬히 나를 바라보았다.

“이분이 입은 가수리는 타미쯔기(民次)하고 똑같은 무늬구나. 이봐, 그렇구나. 똑같은 무늬잖아.”

(11) エ "The young student's indigo kimono certainly is nice," the woman remarked, her eyes fixed on me.

"The pattern is the same as Tamiji's. Isn't it. Isn't it the same?"

(11) アの日本語は、(10)のように自立語の副詞「そう」に二つの付属語「だ」と「ね」が後接した一語文である。「そうだね」は、前文の「この方の飛白は民次と同じ柄」全体を受けている。

(11) イの中国語訳は、文頭に主格「你」（あなたが）と動詞「说」（言う）を補って訳しているため、一語文ではない。

(11) ウの韓国語訳は、「그렇구나」[kʌrək^huna]（そうなんだ）の前に、感動詞「이봐」[ibwa]（ねえ／なあ）を補っているため、一語文とは言えない。

(11) エの英語訳は、「そうだね」を表現するために、文末に来るべき付加疑問文を一文として独立させて訳している。この独立した付加疑問文の文末に疑問符ではなく、ピリオドを打つのは、相手に強い確信を持っているというニュアンスを訳出しようとしたと考えられる。Alexander (1988) は、「When tag questions are asked with a falling tone, they are more like statements: the falling tone suggests greater certainty. They ask for confirmation of what the questioner assumes to be true」（付加疑問文は下降調で訊かれる場合に、平叙文に近い感じがする。下降調が強い確信を持っていることを含意する。つまり質問者は自らが真実であると想定していることに対して確認を求める）と指摘している。しかし、Isn't itは動詞も形式主語も含むため、一語文とは言えない。

6. まとめと考察

本稿では、日本語・中国語・韓国語・英語を対象に対照してみた。判定結果をまとめて表1に示す。○は一語文であることを表し、×は一語文ではないことを表す。

表1. 一語文か否かの中国語訳・韓国語訳・英語訳の判定結果（全14例）

	韓国語	中国語	英語
名詞一語文 (1)	○	○	×
名詞一語文 (2)	○	×	×
名詞一語文 (3)	○○○	×○○	×××
動詞一語文 (4)	×	×	×
動詞一語文 (5)	○	×	×
動詞一語文 (6)	×○	××	××
形容詞一語文 (7)	○	○	×
形容詞一語文 (8)	×	×	×
形容詞一語文 (9)	○	○	×
副詞一語文 (10)	○	○	×
副詞一語文 (11)	×	×	×

全体的に見ると、日本語の一語文表現に最も近似する言語は韓国語であり、14例中の10例（71%）が一語文と認定された。中国語訳では、6例（43%）が一語文と認定された。英語訳は、一語文は認められなかった。

他方、日本語の場合、それぞれ名詞、動詞、形容詞、副詞による一語文であるが、訳文は必ずしも名詞、動詞、形容詞、副詞による一語文ではない。例えば、日本語の形容詞による一語文(7)の場合、中国語は動詞を用いて訳している。(8)の場合、韓国語も感動詞と動詞を用いて訳している。

本稿の分析で扱った名詞一語文(1)「皆は？」の疑問文の形式を採る主題のみの一語文の場合に関して、小池(2000)も郭(1959)も言及していない。疑問文の形式を採る名詞一語文の例は、小池(2000)は「犬？」を挙げており、郭(1959)は「什么？」(何?)という例を挙げていますが、「主題のみの一語文」の例が見当たらない。

名詞だけが残る名詞一語文の場合、文脈に応じて解釈も異なってくるが、述部が省かれ、主題だけ残っているという主題による名詞一語文は、文脈から何が省かれているかが明確であり、日本語・韓国語・中国語のような主題優勢言語(topic-prominent language)ならではの表現ではないかと考えられる。なぜなら、英語の場合、文の形で訳さねばならないからであり、英語を母語とする日本語学習者にとって主題のみの名詞一語文を理解するのが困難であろう。そのため、主題のみの一語文に注目する必要がある。

小池(2000)と郭(1959)の分類を統合し、本稿で得られた主題のみの一語文の場合の例などを加えて、以下の再整理の表を提案しておきたい。

表2. 日本語における一語文について再整理

真性一語文	感動詞一語文	えっ? あれっ? もしもし
擬似一語文	名詞一語文	雨! 犬? 月曜日… 皆は? ₁
	動詞一語文	読めば? 読む!
	形容詞一語文	暑い? 好きだ
	副詞一語文	さっぱり パンパン ₂ そう ₃
	連体詞一語文	このオ あの
	接続詞一語文	しかし…
	一辞文	だろう でしょう
	助詞一辞文	ばかり だけ
	接頭辞・接尾辞一辞文	らしい

註

- (1) 本検討によって明らかになった主題のみの一語文である。仁田(2012)と小池(2000)は、この種の名詞一語文を挙げていないが、実生活では、主題のみの名詞一語文を質問文としてよく用いる。
- (2) 日本語にも、郭(1959)の挙げた「パンパン」のような数多くのオノマトペが存在する。意味上から見れば、「パンパン」すでに一塊になり、副詞一語文として認められ、副詞一語文に入れる必要がある。
- (3) 「そう」は副詞一語文としてよく使われ、「そうだ」「そうでしょう」「そうですか」のように、付属語を後接して出現する形式もある。また、三上(1970)は、「そう」自体が命題を包摂しているため、「ソウ・コウ・ドウをめぐる問題」をとして検討している。「そう」は副詞一語文として認められる。

7. 今後の課題

本稿では、小池(2000)の主張している「擬似一語文」中の名詞、動詞、形容詞、副詞による一語

文を検討対象としている。小池（2000）の挙げた副詞一語文について、「伊豆の踊子」には「そう」以外の例文が見当たらないため、「そう」を中心に検討を加えている。また、実際に一語文であるか否かを判断する際に、言語によって基準が異なっており、判断し難い場合が少なくない。

中国語における一語文の研究は機能や意味による分類が多く、品詞などによる分類が少ないうえに、検討対象も名詞一語文に集中し、動詞、形容詞、接続詞の一語文の研究は、ほとんど見当たらない。

久野（1978）は、「省略されるべき要素は、言語的、或いは非言語的文脈から、復元可能（recoverable）でなければならない」と主張している。逆に、本研究で示されたように英語訳が省略された部分を明示するという機能も果たしていると言えるだろう。

英語の場合、従来「Stop!」や「Why?」などのような表現が一語文として見なされている。しかし、「in the winter, too」のような表現をどう扱うべきかに関する考察は、語とは何かという問題に還元され、再検討する余地がある。

本稿では、「in the winter, too」の「too」が副詞であるために内容語としたが、「too」一語では、独立して意味を成さない。「Quickly」（早く/急いで）などの副詞は一語で独立した意味を成すが、「too」単独では一語文とはならないため、日本語・韓国語と同様に付属語として扱うのが妥当であるのかもしれない。

日本語の「冬でも」は、自立語「冬」に付属語「でも」が後接した一語文だと考えられるのに対して、「in the winter, too」は英語の枠組みでは、一語文とは認められなかった。

日本語の一語文をほかの言語がどう処理するかが本研究の検討の中心であったため、英語の一語文と中国語の一語文のそれぞれの言語としての枠組みの検討は、今後の課題としたい。

【参考資料】

川端康成（2003）『伊豆の踊子』新潮文庫

侍桁訳（1981）『雪国』上海訳文出版

장경룡 옮김(1999) 『설국(雪國)』 문예출판사（文藝出版社）

J. Martin Holman. (1998) *The Dancing Girl of Izu and Other Stories* Counterpoint

【参考文献】

小池清治（2000）「日本語の基本文型 1 =一語文・名詞文・形容詞文=」『外国文学』49

pp. 53-74 宇都宮大学外国文学研究会編

久野暲（1978）『談話の文法』大修館書店

郭中平（1959）『漢語知識講話 簡略句、無主句、独詞句』上海教育出版社

故鞞・潘文娛・劉月華（2004）『實用現代漢語語法』（増訂本）商務印書館

佐藤里美（2009）「一語文的な名詞文の意味・機能」『日本東洋文化論集』vol. 15

pp. 211-241

仁田義雄（2012）「語と語形と活用形」『活用論の前線』くろしお出版 pp. 1-26

三上章（1970）『文法小論集』くろしお出版 pp. 155-168

村井潤一（1986）『言語機能の形成と発達』風間書房

山田孝雄（1936）『日本文法学概論』寶文館

L. G. Alexander. *Longman English grammar*. Longman Group UK Limited, 1988.